

# ひきこもりの国

～心の時代の福音～

2023/10/15

# 「ひきこもり」とは

- **病名ではありません**〈厚生労働省HPより〉
  - 「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、**6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態**」を「ひきこもり」と呼んでいます。「ひきこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、様々な要因が背景になって生じます。」
- **我が国が抱える最大の社会問題！**
  - **200万人**とも言われる成人が社会との直接的な関係をほとんど絶った状態で暮らしている
  - 病気ではないがうつ病患者（172万人／2020年）よりも多くの人々が苦しんでいる

# ひきこもり支援の歴史①

## • 専門家による指摘(1980年代)

- 長期間自宅に閉じこもっている若者がいることが学術論文などで指摘される

## • 黎明期(1990年代)

- **斎藤環**(さいとうたまき・精神科医)「社会的ひきこもり:終らない思春期」(1998年)で、広く社会に「ひきこもり」の存在を伝えた
- そもそもDSM-III(アメリカ精神医学会による診断マニュアル)における”**Social Withdrawal**”の訳
- 「『ひきこもり』を単なる『個人の病理』ではあく、家族・社会からなる『**システムの病理**』だ」と論じた

# ひきこもり支援の歴史②

## •1990年代:民間の支援団体

- ひきこもりの親の会(KHJ)
- 訪問支援・居場所・親の相談

## •2000年代前半:国による支援の開始

- 「10代・20代を中心とした『ひきこもり』をめぐる地域精神保健活動のガイドライン」(2003・厚労省)
- 精神保健福祉センター及び保健所がひきこもりの相談窓口となった

## •2000年代後半

- 就労支援(ワクサポ・若者交流センターなど)

# ひきこもり支援の歴史②

## •1990年代:民間の支援団

- ひきこもりの親の会(KHJ)
- 訪問支援・居場所・親の相談

ようやく国がひきこもり支援を始めたが、「若者」に限っている

## •2000年代前半:国による支援の開始

- 「10代・20代を中心とした『ひきこもり』をめぐる地域精神保健活動のガイドライン」(2003・厚労省)
- 精神保健福祉センター及び保健所がひきこもりの相談窓口となった

## •2000年代後半

- 就労支援(ワクサポ・若者交流センターなど)

# ひきこもり支援の歴史③

## •2010年代前半

- 厚労省は「ひきこもり対策推進事業」を創設し、「**ひきこもり地域支援センター**」を全国の都道府県・政令指定都市において、ひきこもりに特化した専門的な第1次窓口としての設置を始めた

## •2010年代後半

- ひきこもりの高齢化「**5080問題**」
- 就労を経たひきこもり:53%

## •2020年代

- コロナによるひきこもりの急増！（原因の第2位）

# ひきこもり支援の歴史③

## •2010年代前半

- 厚労省は「ひきこもり」を「**ひきこもり地域支援センター**」として、都道府県・政令指定都市に特化した専門的な第1次窓口としての設置を始めた

ひきこもりが「就労問題」から「生存問題」へ移行し始めた

## •2010年代後半

- ひきこもりの高齢化「**5080問題**」
- 就労を経たひきこもり:53%

## •2020年代

- コロナによるひきこもりの急増！（原因の第2位）

# ひきこもりについて統計(内閣府)

## •2010年

- 15～39歳に対するサンプル調査
- **69.6万人**(男性66.1%)

## •2015年

- 15～39歳54.1万人

## •2018年

- はじめて40歳以上を対象として行われた
- 40～64歳:**61.3万人**(合計 約115万人)

## •2022年

- **146万人**(40～64歳:女性52.3%)



# ひきこもりについて統計(内閣府)

## •2010年

- 15~39歳に対するサンプル調査
- **69.6万人**(男性66.1%)

## •2015年

- 15~39歳 **54.1万人**

## •2018年

- はじめて40歳以上 **67.5万人** 増えた
- 40~64歳: **67.5万人**(合計 約115万人)

## •2022年

- **146万人**(40~64歳:女性52.3%)

実際には200万人  
を超えるのでは？

# ひきこもりの原因

## • 精神病

- 統合失調症
- 気分障害(うつ病)
- 不安障害(SAD・神経症・恐怖症)

## • 発達障害

- ASD: 基本的に社会生活が苦手
- ADHD: 失敗が多く自信を失ってしまう
- LD: 仕事の手順などが覚えられない

## • その他

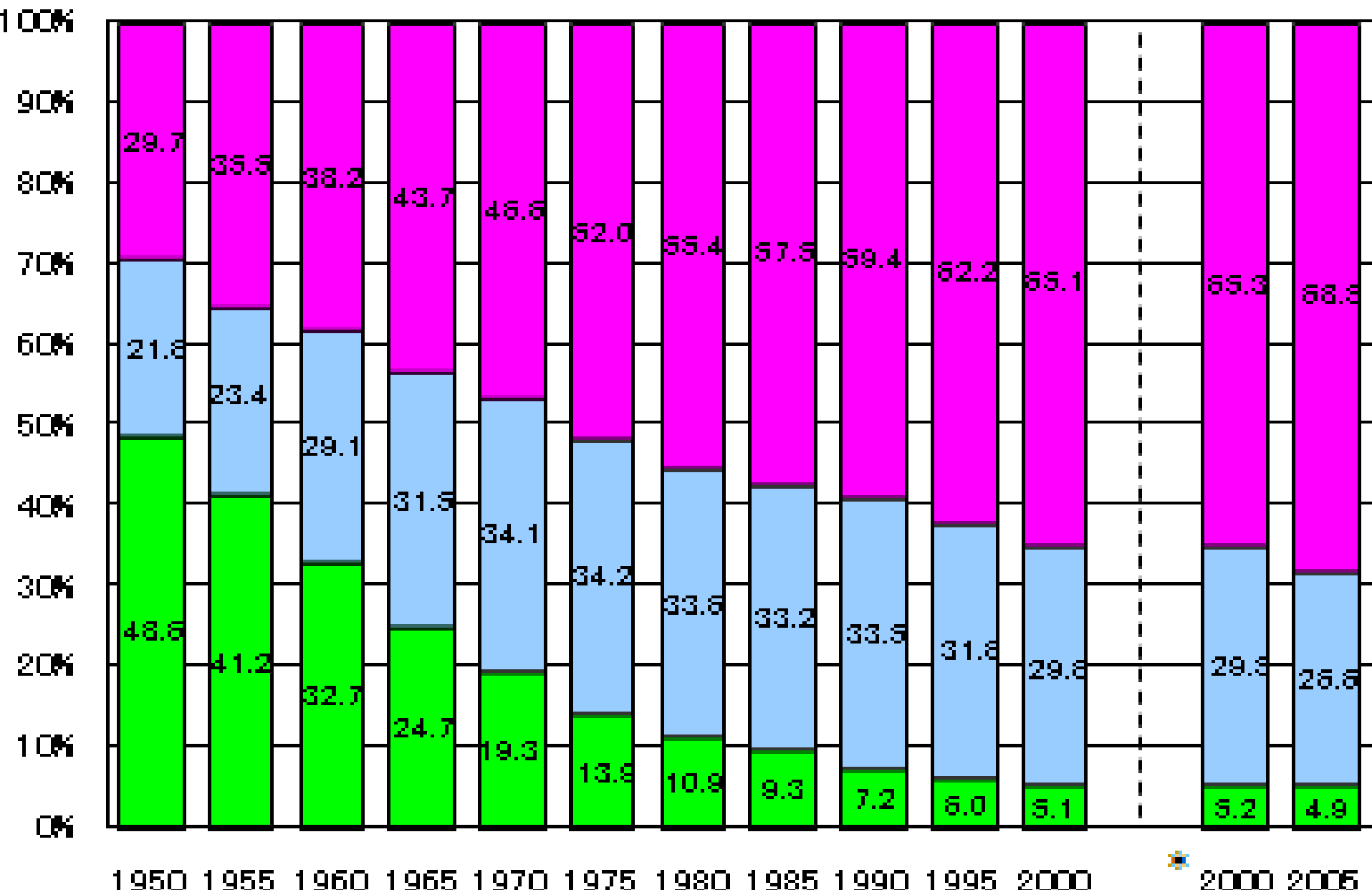
- トラウマ(いじめ・虐待)
- 不明

# ひきこもりを生む**社会背景**

- 働けない社会（マンパワーを必要としない社会）
  - 第一次産業従事者の激減＜次頁＞
  - 第二次産業における人手不要
- 働きにくい社会
  - 第三次産業は人と関わる仕事
- 働く意義を見いだせない時代
- 働かなくてもよい社会（豊かな社会の悲劇）
  - 親有り・家有り・年金有り
  - 経済至上主義＝人間の奴隷化・不要化
- 働かなくても楽しい社会

産業(3部門)就業者の割合の推移  
(1950年～2005年)

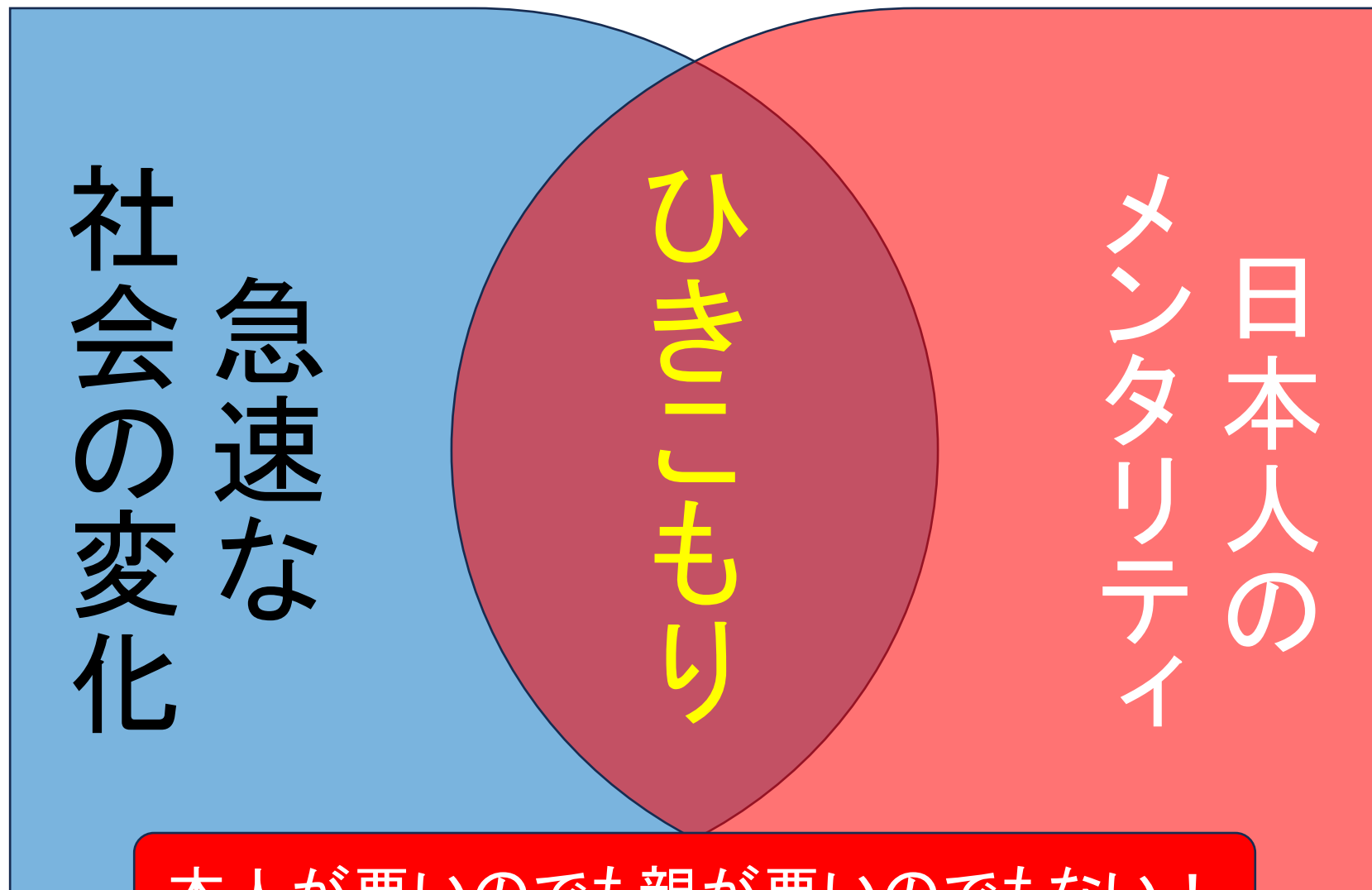
- 第1次産業
- 第2次産業
- 第3次産業



# 日本人のメンタリティ

- ひきこもりとは「自ら解決に乗り出さない状態」である
  - これは**日本人のメンタリティ**そのものである
  - 問題があっても自ら進んで改善しようとししない
  - むしろ誰かが何とかしてくれることを待っている
- 変化に弱い国民性 (ASD的)
  - 同じ事を続ける力はあるが…
- 個を大切にしていなかった (アンチ個人主義)
  - 集団で何とかしてきた国
  - 「出る杭は打たれる」

# ひきこもりの原因



本人が悪いのでも親が悪いのでもない！

# ある提言

「キリスト教の普及だけに韓国人の意識が変わったことの原因を求めるのはあまりにも単純な議論かもしれない。しかし、韓国の人々は教会の導きによって社会的ネットワークを形成し、見知らぬ者とのあいだに信頼を築き、そして、普遍的な倫理観と個人主義を受け入れるようになったのである。この普遍的な倫理観と個人主義は、彼らの祖父母が—そして日本人が—教えられていた権威主義的な世界観に対する強力な解毒剤となったのだ。」

「ひきこもりの国～なぜ日本は「失われた世代」を生んだのか」(2007年・光文社) マイケル・ジーレンジガー(米新聞社・日本支局長を7年務める)

# ある提言

「キリスト教の普及だけに韓国人の意識が変わったことの原因を求めるのはあまりにも単純な議論かもしれない。しかし、韓国の人々は教会の導きによって社会的ネットワークを形成し、見知らぬ者とのあいだに信頼を築き、そして、普遍的な倫理観と個人主義を受け入れるようになったのである。この普遍的な倫理観と個人主義は、彼らのいた権威主義的な社会から毒剤となったのだ。」

日本は国としてひきこもっている！

「ひきこもりの国～なぜ日本は「失われた世代」を生んだのか」(2007年・光文社) マイケル・ジーレンジガー(米新聞社・日本支局長を7年務める)



喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。

<ローマ12章15-16節>